

シリーズ 第9回

# 白鳥の歌

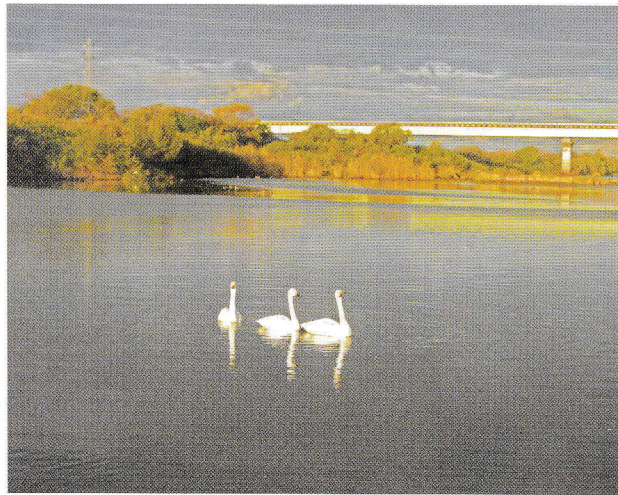
## また会えたね!!

文・写真 岸谷 英雄

# 診療所だより

第四一五号 (12月号)

発行 (医) 宏友会  
上田診療所  
酒田市上野曾根  
字上中割73番地  
TEL0234-27-3306  
責任者 矢島恭一



今回はシベリアに帰れず最上川で暮らしてきた3羽の白鳥さんと、シベリアから帰ってきたお仲間との再会についてのお話です。

連載6回目で紹介した3羽の傷ついた白鳥さん、厳しい夏の暑さや台風による川の増水、川岸近くに現れる四つ足動物などの脅威も乗り越えて、とうとうシベリアからお仲間が帰ってくるまで、元気に生き延びました。

僕は彼らとシベリアから帰ってくるお仲間との再会を待ちわびていました。  
ただ、白鳥さんたちは家族・仲間の絆が強い一方で、違うグループ、家族に対しては排他的です。



最初はやはり、あの3羽は他の白鳥さんから距離をおいていましたが、ずっと春から待ち望んでいたであろう、お仲間との再会です。次第に集団の端の方にいるようになりました。そして、近くにいるお仲間と、何やら優しい声で鳴き交わしたりしています。

飛べない彼らは、たくさんのお仲間が朝早く田んぼに出勤すると、3羽で皆が帰るまで、餌を探したりしてお留守番です。そうして、日暮れ時に次々と田んぼから帰ってくるお仲間をねぐらでお迎えします。

春からあの3羽の子たちが一生けん命に暮らしてきたのを見守ってきた僕は、そんな彼らの様子を見て本当にうれしくなりました。

写真の1枚目は、春から生き抜いてきた3羽の白鳥さん、2枚目はその3羽(赤丸)とシベリアから来た4羽の白鳥さんファミリーです。

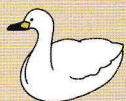
最上川でずっと過ごしていた3羽がシベリアから帰ってきた多くの白鳥さんから果たしてめでたく仲間に入れてもらえるのか、とても心配でした。  
そうしてシベリアからの白鳥さんたちが、とうとう一部の集団が、彼らのねぐら近くまでやってきました。

このコーナーに

対する感想や

応援メッセージを

お待ちしております。



(編集部)





# シリーズ「ふるさと」

## その168 くるみ割りカラス

カラスが空中からクルミを落として車にひかせ、割れた中味を道路で食べていた。クルミや貝などを落下させるカラスの行動は知っていたが、実際に目の前で起きると「人がカラスに利用されている」ように思えた。クルミ割り行動が最初に見られたのは東北大学のキャンパスだった。今は東北地方全域まで広まっている。クルミや貝は栄養価が高く、それを食べたカラスは他のカラスより健康で、多くの子孫を残すことができる。そのため、「クルミ割り」を学習したカラスは徐々に増え、カラスとは「クルミを割る鳥だ」と言われるようになるかも知れない。



が、カラスは火に興味を持つらしい。昔は、カラスが墓場から火のついたロウソクや線香をくわえて飛び出し、茅葺き屋根や杉皮屋根に投げ火災を起こすことがあったようだ。そのため、お墓参りの際には「火の始末をきちんとするように」と村の総代からきついお達しがあったそうだ。ところで、魚の餌を売っている自動販売機の前に、落ちていたコインを投入し餌を取り出して食べているカラスが現れたそう。間もなく、自動販売機からビールを取り出し、千鳥足で道路を横断するカラスが見られるかも・・・。

動物は火を恐れ嫌うはずだ

(庄内 平也)

### 10月法人全体会議 防災研修



災害が起こったと想定した演習  
リモート中継で学びました

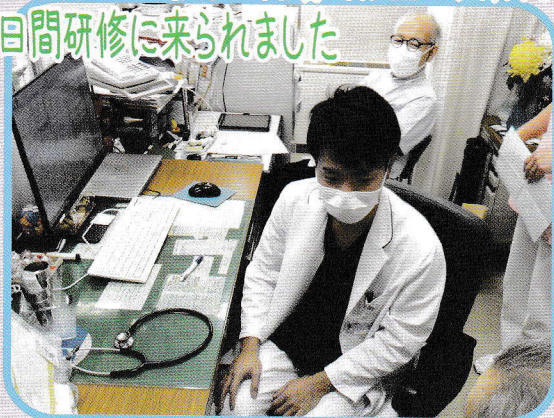


### 上田案山子まつり

診療所のニコちゃんは「じよんだで賞」受賞!

## ホップトニユニス

日本海総合病院より初期研修医の久保陽平先生が  
2日間研修に来られました



### ☆久保先生より

診療所が和やかな雰囲気にもまれており、矢島先生をはじめスタッフの方々と患者さんの強い信頼関係が伝わってきました。自分も矢島先生のような患者さん第一の医療を提供できるよう頑張ります。



# 今年も二大ニュースで締めくくります

矢島 恭一

毎年12月号は、その年私の身の上下に起きた二大ニュースで締めくくってききましたが、今年も昨年と同じようにコロナ感染症とワクチン接種、それにウクライナへのロシア侵攻に明け暮れた一年でした。

つまり私自身は感染しないように遠出しなない巣ごもりの生活を続け、遠出しなないので変哲のない日々の繰り返しでしたが、時にスリリングなことがあり、気が抜けない一年でした。

今年春頃からは、集会在緩和され、演奏会には出かけましたが、主治医から飲酒を禁じられているので、宴席には極力出席しないようにしていました。

幸いなことに、リモートでの学術集会の聴講が出来るようになったので、資格の更新の際の単位取得は楽になりました。反面やたらとこの手の講演会（多くは製薬会社を持ち込むもの）が増え、多少辟易気味です。診療のあととはゆっくり休む時間が欲しいからです。

さて新型コロナワクチン接種についてです。昨年からは始まった新型コロナワクチンの接種は、これまで4回目が終わわり、気持ち的にゆっくりに短縮して接種するようにとのお達しが出て、5回目が始まりまし

クチンとオーバーラップする接種時期です。注射の間違いを避けるように11月中旬にインフルエンザワクチンを終了し（例年は12月一杯に終了）、12月からコロナワクチンを接種しようとしていたところ、第8波の流行が始まり、これまでのワクチンでは効果がないことも判ってきたので、前倒しで接種を始めることになりました。



従って1日の注射する人数が60〜70人に達することもあり、通常の外来診療にも支障が出ています。

また注射の事後処理も大変で、接種した人の報告があります。折からの第8波の流行で、毎日の検査と発生届け（これも一部緩和され高齢者のみとなったのですが）その日のう

ちに報告、翌日から7日間の電話診療が始まります。

この業務を私一人でやったら、今頃あの世に往っていったかもしれませんが私のところの献身的スタッフが支えてくれております。

そんな折、8月には当法人内でも施設内感染が起き、職員も感染しましたので、勤務のやりくりをするのに苦労しました。このクラスター発生も幸いなことに2週間あまりで収束しましたので、胸をなで下ろしたところですが、しかし施設内感染、院内感染は繰り返すことが分かっており、油断は出来ません。

県からは、近く抗原検査キットが配布される予定であると聞いており、週二回スタッフ全員が症状のあるなしに拘わらず検査するようになりました。

ウイルスは、どんなに強力なワクチンが出来ても変異を繰り返して、生き残っていくといわれ、撲滅するのは難しいかもしれませんが、もう少し日常生活が穏やかに過ごせるようになることを祈るばかりです。

穏やかな日常生活といえば、ウクライナにロシアが進行し、未だに解決の糸口さえ見出せないまま泥沼にはまっていくようです。戦争とはこんなものかもしれません。どちらの国が、生きるのが辛くなって、降参の手を上げるまでは。

それにしても第二次世界大戦の終盤のように国連は全く機能しなくなっており、どうやって收拾するのでしょうか。来年こそいい年になりますように。

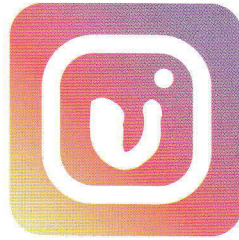




▶倒れたコキアを起こしたら  
見事なグラデーションになりました。

▶チューリップのフルーツサンド  
切り口にお花が咲いて大成功！

# Instagram



ヘルパー  
小関 智子



職員が撮ったお気に入りを紹介します★

## 11月号の答え

チンゲンサイ  
モヤシ でした！

富山市在住の土田芳男さんより届いた絵手紙をご紹介します。



今月の

絵手紙

脳トレ



## アタマの体操

☆次の漢字を組み合わせてできる  
二字熟語は何でしょうか？

ヒント 左右に並べたり上下に並べたり  
してみてください。

①糸・本・会

②日・門・人

③糸・羽・白・東



ほほがえみし



いつ迎えに来てても良いのに  
：もう、生きているのに飽きて  
しまったと笑う97才のAさ  
ん。昨年、ハタハタの田楽を  
食べ損ねてしまった事が悔し  
く「来年の大黒様まで死なん  
ねぐなた」と話していた。今  
年も来年も、いっぱい食べて  
下さいネ！  
(森屋)

## 年末年始お知らせ

12月28日(水) 通常通り診察  
29日(木) 休診  
30日(金) 通常通り診察  
1月1日(土) 休診  
2日(日) 休診  
3日(月) 休診  
4日(火) 通常通り診察

\***新型コロナウイルス検査**(抗原検査・遺伝子検査)できます。  
検査をご希望の方はスタッフ  
までお声がけください。  
予約は電話にて可能です。

## 編集後記

6月号で登場した白鳥さん  
たちの再会。受け入れてもら  
えるかドキドキしながら読み  
進めましたが、次第に仲良く  
なっていく、お出迎えをする  
ようになったとは！心から安心  
しました。  
(阿部)